

令和六年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属天王寺小学校

1 附属天王寺小学校の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属天王寺小学校

(2) 所在地

大阪市阿倍野区松崎町1-2-45

(3) 学級数・収容定員

18学級(1学年3学級) 収容定員630人(1学級35人)

(4) 幼児・児童・生徒数

627人(男子310人・女子317人)

(5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 指導教諭 1人, 教諭 20人(うち, 臨時的雇用3人), 非常勤講師 10人 事務職員1人, 臨時用務員(用務員)1人, 臨時用務員(調理師)7人, 教育後援会雇い事務職員1人, スクールロイヤー1 カウンセラー1人, 警備員2人

2 附属天王寺小学校の特徴

本校は、大阪教育大学の附属する小学校で、教育基本法及び学校教育法に基づいて義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを行う。

3 附属天王寺小学校の役割

- (1) 大阪教育大学と一体となって、教育の理論と実際に関する研究を行うこと。
- (2) 本学の教育実習機関として、実習生を随時受け入れ、適切な指導を行うこと。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てること。
- (4) 本学が行う現職教員研修に研修の場を提供すること。

4 附属天王寺小学校の学校教育目標

個が生きる学校

「自他の人格を尊重し、実践力のある子」「生命を尊重し、健康で安全につとめる子」「みんなと協力してしごとのできる子」「ものごとを最後までやりとおせる子」「きまりを守り、明るくくらせる子」

5 附属天王寺小学校の学校教育計画

1 学び合う集団の形成と確かな学力の定着

学び合う集団の形成を目指し、各教科、道徳、特別活動等を通じて共に考える力、伝え合う力の定着を図る。

2 安心・安全な環境と豊かな人間関係づくりの推進

誰もが気持ちよく学ぶことができる環境を整え、また一人一人が自分本位に陥ることなく、相手の立場に立って考え、行動できる児童を育成する。

6 附属天王寺小学校の令和四年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

※【令和4年度→令和5年度→令和6年度】

昨年度と比較し, 5%以上増加は青, 5%以上減少は赤で表記する。

学校教育目標	個が生きる学校
学校教育計画	1 学び合う集団の形成と確かな学力の定着 学び合う集団の形成を目指し, 各教科, 道徳, 特別活動等を通じて考える力, 伝え合う力の定着を図る。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策																												
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価																													
(1) 学び合う集団の形成 (学級経営)	① 学級の当番活動の内容、方法を学年や学級の実態に応じて工夫する。	<p>教員アンケート結果</p> <p>◎学級の当番活動の内容、方法を学年や学級の実態に応じて工夫しましたか</p> <p>①よく工夫した 【27.8%→33.3%→54.5%】</p> <p>②工夫した 【68.2%→55.6%→45.5%】</p> <p>③あまり工夫しなかった 【9.1%→5%→0%】</p> <p>④工夫しなかった 【0%→5%→0%】</p> <p>児童アンケート</p> <p>◎クラスの仕事(日直, 係)をよくがんばりましたか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくがんばった</td> <td>80</td> <td>84</td> <td>80</td> <td>67</td> <td>57</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>がんばった</td> <td>19</td> <td>16</td> <td>20</td> <td>33</td> <td>38</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>あまり がんばらなかった</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>		1年	2年	3年	4年	5年	6年	よくがんばった	80	84	80	67	57	48	がんばった	19	16	20	33	38	50	あまり がんばらなかった	1	0	0	0	2	2	<p>昨年度より、掲示物などの共有化を進め、経験の浅い先生、新転任の先生も実施可能なように備品や環境を整えている。</p> <p>次年度も同様に、まずは環境面での整えを行うようにする。</p>	A	<p>教員アンケートや児童の自己評価を踏まえて、評価は妥当であると考えている。ただ、児童へのアンケートで、「がんばりましたか」という問いと、「工夫する」というねらいの関係が不明確なので、アンケートの内容について検討が必要ではないか。</p>	A	<p>児童アンケートの項目を「がんばりましたか」ではなく、「みんなが学びやすいクラスにするために、クラスの仕事を工夫してとりくめたか」に変更する。</p>
	1年	2年	3年	4年	5年	6年																													
よくがんばった	80	84	80	67	57	48																													
がんばった	19	16	20	33	38	50																													
あまり がんばらなかった	1	0	0	0	2	2																													

		<table border="1" data-bbox="667 114 1153 162"> <tr> <td>がんばらなかつた</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> </table> <p>教員アンケートに注目すると「よく工夫した」「工夫した」をあわせて100%と、昨年度より10%向上した。また児童アンケートでは、「よくがんばった」「がんばった」をあわせると、95～100%となっている。</p> <p>以上より、両者には相関が見られ、教員の工夫の成果として評価できる。</p>	がんばらなかつた	0	0	0	0	3	0											
がんばらなかつた	0	0	0	0	3	0														
	<p>②各授業や、特別活動において、継続的に対話活動を取り入れる。</p>	<p>教員アンケート結果</p> <p>◎各授業や特別活動において、対話活動を取り入れましたか</p> <p>①よく取り入れた【40.9%→55.6%→38.5%】</p> <p>②概ね取り入れた【52.4%→39.4%→53.8%】</p> <p>③あまり取り入れなかつた【0%→5%→7.7%】</p> <p>④取り入れなかつた【0%→0%→0%】</p> <p>保護者アンケート結果（回答356人）</p> <p>◎授業での対話活動等を通して、子ども同士が互いに学び合う雰囲気は感じられましたか</p> <p>①よく感じられた【79%→73.3%→84.3%】</p> <p>②感じられた【20%→25%→14.93%】</p> <p>③あまり感じられなかつた【6.8%→1.6%→0.6%】</p> <p>④感じられなかつた【1.2%→0.3%→0.3%】</p> <p>児童アンケート</p> <p>◎授業や行事（スポーツデーや学芸会）で友達と話し合ったり、協力したりできましたか。</p> <table border="1" data-bbox="676 1364 1146 1444"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>年</td> <td>年</td> <td>年</td> <td>年</td> <td>年</td> <td>年</td> </tr> </table>		1	2	3	4	5	6		年	年	年	年	年	年	<p>対話的な活動の意義や方法についての共有を継続的に進めている。</p> <p>昨年度は対話的な活動をよく取り入れた概ね取り入れたの割合が95%、今年度は92.3%であった。</p> <p>保護者の評価からは、昨年度も今年度も高い評価を得られているので、教員の自覚を高めることを考慮する必要があると考える。</p>	B	<p>目標である「継続的に対話活動を取り入れる」について、「継続的」をどのように自己評価できるか、評価項目の検討が必要である。</p>	B
	1	2	3	4	5	6														
	年	年	年	年	年	年														

よくできた	77	85	79	77	87	79
できた	22	15	21	21	12	20
あまり できなかった	1	0	0	2	2	0
できなかった	0	0	0	0	0	1

対話的な活動の評価は、教員アンケートでは「よく取り入れた」「概ね取り入れた」を合わせると、92.3%、保護者アンケートでは「よく感じられた」「感じられた」を合わせると、99.2%と、高い数値であった。

また児童アンケートの結果においても「よくできた」「できた」を合わせて98~100%と、高い数値として表れていた。

対話的な活動については、保護者からも児童からも、明確にその活動の良さや効果を実感できていることが予想される。

一方、昨年度と同様、一部の教員で、対話的な活動を取り入れたのが100%ではなかったことは課題である。

③児童の学級の雰囲気の満足度を高める。
B基準は、全国平均程度、A基準は全国平均より20%以上とする。
(※QUアンケートを活用)

児童QUアンケート結果
学級生活満足群
1年生 74%→70%→71% (全国平均42%)
2年生 71%→80%→82% (全国平均42%)
3年生 82%→70%→93% (全国平均42%)
4年生 56%→82%→63% (全国平均43%)
5年生 76%→53%→87% (全国平均43%)
6年生 70%→81%→77% (全国平均43%)

どの学年も全国平均より数値が高かったことから、本校児童の学校生活への取り組みに対する意

全学年、全国平均を20%上回った。

今後も、学級の雰囲気の満足度を高めるために、個性が認められ、生かされる場であることが必要であることを職員全体で

A

全学年の満足群が、全国平均より20%以上なので評価をAとする。
学年によるばらつきについては、何が問題だったのか、検討が必要。

A

次年度、QUアンケートの中間評価を活用し、学級生活の満足度に影響をあたえる要因を分析し、学年の実態を早期発見できるように努める。

		欲は非常に高く、雰囲気を維持、継続しようとする態度が身についていると推測できる。	共有する。																																						
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策																																		
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価																																			
(2) 確かな学力の定着	① 学習課題や発問を工夫し、多様な意見が出るようにする。	<p>教員アンケート結果</p> <p>◎児童から多様な意見がでるように、学習課題や発問を工夫しましたか</p> <p>①よく工夫した 【31.8%→50%→46.2%】</p> <p>②工夫した 【68.2%→44.4%→53.8%】</p> <p>③あまり工夫しなかった 【0%→5%→0%】</p> <p>④工夫しなかった 【0%→0%→0%】</p>	<p>学習課題や発問の工夫について、教員は「よく工夫した」「工夫した」が100%であった。また児童自身も97～100%の児童が、いろんな意見をきくことよさを実感している。</p> <p>以上のように、高いレベルで維持できているので、次年度も継続できるように努力したい。</p>	A	<p>児童アンケートで、全学年95%以上の児童が、友だちの意見を聞くことで、授業がよくわかったと回答していることは評価できる。</p> <p>更に多様な意見にふれるよさを実感できるような取り組みやそのための評価項目を検討することが大切である。</p>	A	<p>「多様な意見を聞くことで、学習の理解がふかまったか、」や「多様な意見を聞くことで、新たに関心をもったり、解決のアイデアがひらめいたか」など、多様な意見にふれるよさを実感できる評価を行う。</p>																																		
		<p>児童アンケート</p> <p>◎友達のいろんな考えを聞くことで、授業がよくわかるようになりましたか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくわかった</td> <td>62</td> <td>84</td> <td>78</td> <td>83</td> <td>85</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>わかった</td> <td>35</td> <td>15</td> <td>22</td> <td>17</td> <td>15</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>あまりわからなかった</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>わからなかった</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>教員アンケートで、学習課題や発問を「よく工夫した」「工夫した」を合わせて、100%であり高い水準を維持している。</p> <p>また児童アンケートでも、友達の考えを聞くことで「よくわかった」「わかった」を合わせて、97</p>		1年	2年	3年	4年	5年	6年	よくわかった	62	84	78	83	85	65	わかった	35	15	22	17	15	33	あまりわからなかった	3	1	0	0	0	2	わからなかった	0	0	0	0	0	0				
	1年	2年	3年	4年	5年	6年																																			
よくわかった	62	84	78	83	85	65																																			
わかった	35	15	22	17	15	33																																			
あまりわからなかった	3	1	0	0	0	2																																			
わからなかった	0	0	0	0	0	0																																			

		<p>～100%であったことから、多様な意見を出す工夫により、授業の学習内容の理解がふかったことに貢献していることが推測される。</p>			
	<p>②ノートやテストの返却の際、児童へのフィードバックを工夫する。</p>	<p>教員アンケート結果</p> <p>◎ノートやテストの返却の際、助言や指導を行いましたか</p> <p>①よく助言や指導を行った 【30%→33.3%→30.8%】</p> <p>②助言や指導を行った 【65%→61.1%→61.5%】</p> <p>③あまり助言や指導を行わなかった 【5%→5%→0%】</p> <p>④助言や指導を行わなかった 【0%→0%→7.7%】</p> <p>保護者アンケート結果 (回答 356 人)</p> <p>◎ノートやテストに対する教員からの助言や指導はわかりやすいものでしたか</p> <p>①大変わかりやすい 【47.5%→50.2%→51.1%】</p> <p>②わかりやすい 【45.3%→38.7%→42.4%】</p> <p>③あまりわかりやすいものでなかった 【5.7%→8.8%→4.5%】</p> <p>④あまり助言や指導がなされなかった 【1.5%→2.2%→2%】</p> <p>教員アンケートで、ノートやテストに対する助言や指導を「よく行った」「行った」が92.3%、保護者アンケートで「大変わかりやすい」「わかりやすい」が93.5%であった。</p> <p>保護者からの評価が、88.9%から約3%上昇し</p>	<p>児童へのフィードバックの方法について、研修・研究会議において検討を行う。</p> <p>また次年度も、保護者の方にも伝わるような、ノートやテストの助言や指導のあり方についての教員研修の場を設定する。</p>	<p>B</p> <p>フィードバックにかかわる保護者アンケートの結果は、児童の意見なのか、児童の様子をみた保護者の意見なのか、または保護者の意見なのか不明確である。</p> <p>また、フィードバックは、ノートのコメントだけではなく、「はんこ」「シール」「授業中でのとりあげ」など、多様なアプローチがある。そのことを児童にも自覚できるように、指導と評価を行うことが大切である。</p>	<p>B</p> <p>次年度、児童アンケートを実施する。</p> <p>また教員アンケート、保護者アンケートについても、アンケートの文言をより適切なものにするために検討を行う。</p>

		ており、今年度の取り組みが十分ではなかったと考えられる。				
<p>③児童の学習意欲を高める。</p> <p>B基準は、全国平均程度、A基準は全国平均より1点以上とする。(※QUアンケートを活用)</p>	<p>児童QUアンケート結果</p> <p>学習意欲 ※満点12点</p> <p>1年生 11.1点→11.3点→10.8点 (全国平均10.0点)</p> <p>2年生 10.6点→10.8点→11.2点 (全国平均10.0点)</p> <p>3年生 10.9点→11点→11.1点 (全国平均10.0点)</p> <p>4年生 10.5点→10.8点→10.7点 (全国平均9.6点)</p> <p>5年生 10.6点→10.1点→10.7点 (全国平均9.6点)</p> <p>6年生 10.4点→10.5点→10.7点 (全国平均9.6点)</p> <p>全国平均より、1年生は0.8点、2年生は1.2点、3年生は1.1点、4年生は1.1点、5年生は1.1点、6年生は1.1点高かった。どの学年も全国平均より高かったのは成果であると考え。</p> <p>なお今年度における学習の満足度は、低学年、高学年に関係なく、数値として表れている。学習意欲は、日々の授業の工夫と相関があると考えられるので、今年度の結果をうけとめ次年度に課題をつなげることが必要である。</p>	<p>学年が上がっても学習意欲が低下していないことは、各学年の授業の工夫や学級経営の成果の表れである。</p> <p>次年度も、学習意欲を継続発展できるように、教員間で課題を共有する。</p>	B	<p>全学年が学習意欲の全国平均より1点以上ではなかったため、Bとするのは妥当である。一方、全学年、全国平均より高いという実態は素晴らしいことなので、学級生活満足群と同様、学年のばらつきの原因を分析しつつ、これまでの指導のよさを継続できるようにしてほしい。</p>	<p>次年度、QUアンケートの中間評価を活用し、学習意欲に影響をあたえる要因を分析し、学年の実態を早期発見できるように努める。</p>	

学校教育目標	個が生きる学校						
学校教育計画	2 安心・安全な環境と豊かな人間関係づくりの推進 誰もが気持ちよく学ぶことができる環境を整え、また一人一人が自分本位に陥ることなく、相手の立場に立って考え、行動できる児童を育成する。						
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)安心・安全な環境 ※校内整備、環境整備を行い、教員が働きやすい、児童が学びやすい環境を整える。	①児童が学びやすいように、教室や特別教室の環境を継続的に整える。	<p>教員アンケート結果</p> <p>◎教室や特別教室を児童が学びやすく整えることができましたか</p> <p>①よくできた 【40%→50%→53.8%】</p> <p>②できた 【60%→38.9%→30.9%】</p> <p>③あまりできなかった 【0%→11%→15.4%】</p> <p>④できなかった 【0%→0%→0%】</p> <p>保護者アンケート結果 (回答 356 人)</p> <p>◎お子様の教室や特別教室は、児童が学びやすく整えられていると感じられましたか</p> <p>①よく感じられた 【72.7%→68.3%→71.3%】</p> <p>②感じられた 【25.5%→27.7%→27%】</p> <p>③あまり感じられなかった 【1.2%→4%→1.4%】</p> <p>④感じられなかった 【0%→0.6%→0.3%】</p> <p>教員アンケートで、環境改善について「よくできた」「できた」をあわせて84.7%、保護者アンケートで「よく感じられた」「感じられた」を合わせて98.3%であった。</p> <p>保護者から継続して90%をこえる評価を得られている。一方で、教員の環境改善の意識は昨年度より下降している。</p>	<p>児童の学習環境の改善には何が必要で、何が効果的か、教員全体で検討することを昨年度の課題と示したが、今年度、十分話し合うことができなかった。</p> <p>結果、教員のアンケートでは、「よくできた」「できた」の合計が84.7%であった。一方、保護者アンケートは98.3%と高い結果であった。そのギャップについて検討を行う。</p>	B	<p>目標である「継続的に整える」について、「継続的」をどのように自己評価できるか、評価項目の検討が必要である。</p>	B	<p>教員アンケートで、「教室や特別教室を児童が学びやすくするため、継続的に戸と得たのか」に変更する。</p>

②清掃指導に努め、校内を美しく保つことができます。

教員アンケート結果

◎清掃指導に努め、校内を美しく保つことができましたか

- ①よくできた 【40.9%→40%→61.5%】
- ②できた 【54.5%→50%→30.8%】
- ③あまりできなかつた 【4.5%→10%→7.7%】
- ④できなかつた 【0%→0%→0%】

保護者アンケート結果 (回答 356 人)

◎保護者の皆様が学校に来られたときの印象をお選びください

- ①掃除がゆきとどいている 【62%→66.5%→84.3%】
- ②概ね掃除がゆきとどいている 【34.3%→32.5%→14.9%】
- ③あまり掃除がゆきとどいていない 【2.2%→0.6%→0.5%】
- ④掃除がゆきとどいていない 【0.8%→0.4%→0.3%】

児童アンケート (回答 624 人)

◎教室や廊下のそうじや片付けをがんばりましたか。

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
よくがんばった	63	70	73	66	70	52
がんばった	35	26	21	30	28	42
あまり がんばらなかつた	2	4	6	3	2	6
がんばらなかつた	0	0	0	1	0	0

教員アンケートで、清掃指導について「よくできた」「できた」をあわせて95.7%→90%→92.3%、保護者アンケートで「ゆきとどいている」「概ねゆ

コロナ過以降、校内を清潔に保つという意識は高いレベルで維持されている。

その背景には、健康安全委員会の皆様、多くの清掃ボランティアの皆様の存在が大きい。

次年度もその意識を維持、向上できるように、教員間で共有する。

B

児童アンケートで、全学年、90%以上の児童が、そうじをがんばったと回答したのは素晴らしい。

校内の環境のよさについて、児童が感謝を感じているかをアンケートで問うことも必要ではないか。

A

次年度、児童アンケートにて、「学校がきれいでこちよいたと思いますか」や「学校が美しく保たれていることにありがとうございますか」という気持ちをもっていますか」などを問うようにする。

		<p>きとどいている」を合わせて99%→98%→99.2%、児童アンケートでは、「よくがんばった」「がんばった」をあわせて、94～98%であった。今年度も保護者ボランティアのご協力があり、一年を通して清潔さを維持できたのが理由であると考え</p>																																											
<p>(2) 豊かな人間関係づくり</p>	<p>①通学班別活動、トリオタイム、委員会活動、クラブ活動での異学年交流を充実させることを通して、児童の友達関係を良好にできるようにする。</p>	<p>児童QIアンケート結果</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">ソーシャルスキル (4年生以上)</td> </tr> <tr> <td>◎配慮</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>29.7点→30.9点→29.9点 (全国平均27.8点)</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>30.3点→29.5点→30.6点 (全国平均27.8点)</td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td>29.5点→30.3点→31点 (全国平均27.8点)</td> </tr> <tr> <td>◎かかわり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>27.3点→28.5点→27.6点 (全国平均24.3点)</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>27.8点→27.1点→28.6点 (全国平均24.3点)</td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td>27.7点→28.1点→28.4点 (全国平均24.3点)</td> </tr> </table> <p>児童アンケート</p> <p>◎トリオタイムは楽しいですか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても楽しい</td> <td>94</td> <td>89</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>楽しい</td> <td>5</td> <td>11</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>あまり楽しくない</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>楽しくない</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	ソーシャルスキル (4年生以上)		◎配慮		4年生	29.7点→30.9点→29.9点 (全国平均27.8点)	5年生	30.3点→29.5点→30.6点 (全国平均27.8点)	6年生	29.5点→30.3点→31点 (全国平均27.8点)	◎かかわり		4年生	27.3点→28.5点→27.6点 (全国平均24.3点)	5年生	27.8点→27.1点→28.6点 (全国平均24.3点)	6年生	27.7点→28.1点→28.4点 (全国平均24.3点)		1年	2年	3年	とても楽しい	94	89	75	楽しい	5	11	20	あまり楽しくない	1	0	4	楽しくない	0	0	1	<p>ソーシャルスキルの「配慮」「かかわり」ともに、全国平均よりも高く維持できている。そのための取り組みである「トリオ活動」「クラブ、委員会活動」を今後も継続して充実させていく。</p>	B	<p>全国平均ですべて、2点以上であるのは素晴らしい。これまでのトリオ活動などの継続的な取り組みが効果的であったことが窺える。</p>	A	<p>次年度も異学年交流を大切にし、継続的に取り組むようにする。</p>
ソーシャルスキル (4年生以上)																																													
◎配慮																																													
4年生	29.7点→30.9点→29.9点 (全国平均27.8点)																																												
5年生	30.3点→29.5点→30.6点 (全国平均27.8点)																																												
6年生	29.5点→30.3点→31点 (全国平均27.8点)																																												
◎かかわり																																													
4年生	27.3点→28.5点→27.6点 (全国平均24.3点)																																												
5年生	27.8点→27.1点→28.6点 (全国平均24.3点)																																												
6年生	27.7点→28.1点→28.4点 (全国平均24.3点)																																												
	1年	2年	3年																																										
とても楽しい	94	89	75																																										
楽しい	5	11	20																																										
あまり楽しくない	1	0	4																																										
楽しくない	0	0	1																																										

◎クラブ委員会はやりがいがありますか

	4年	5年	6年
とてやりがいがある	82	86	74
やりがいがある	16	12	21
あまりやりがいがない	1	2	3
やりがいがない	1	0	2

昨年度より、1年生から3年生までの異学年活動（トリオタイム）を設定し、委員会活動をクラス単位から異学年単位にするなど、子供たちの社会性を高める場設定の工夫を行った。

児童のソーシャルスキルの観点として「配慮」「かかわり」があるが、その両観点とも、全国平均を上回っていた。

また児童アンケートでは、1年生から3年生のトリオタイムに対しては「とても楽しい」「楽しい」を合わせて、96～100%、4年生から6年生の委員会、クラブに対しては「とてもやりがいがある」「やりがいがある」をあわせて、95～98%であった。子ども達も異学年交流に対して、意義を感じていることがうかがえる。

	<p>②児童の友達関係の満足度を高める。</p> <p>B基準は、全国平均程度、A基準は全国平均より1点以上とする。(※QUアンケートを活用)</p>	<p>児童QUアンケート結果</p> <table border="1" data-bbox="663 161 1144 715"> <tr> <td colspan="2">友達関係 ※満点12点</td> </tr> <tr> <td>1年生</td> <td>10.8点→11.1点→11点 (全国平均9.9点)</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>11.1点→11.2点→11.3点 (全国平均9.9点)</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>11.2点→11.2点→11.5点 (全国平均9.9点)</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>10.5点→11.3点→10.8点 (全国平均10.1点)</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>11.2点→10.7点→11.3点 (全国平均10.1点)</td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td>11.0点→11.2点→11.3点 (全国平均10.1点)</td> </tr> </table> <p>友達関係について、全学年、全国平均を超えていることは高く評価できると考える。ソーシャルスキルの「配慮」「かわり」を意識的に高め、より友達関係を良好にできるように努力することが重要であると考え。</p>	友達関係 ※満点12点		1年生	10.8点→11.1点→11点 (全国平均9.9点)	2年生	11.1点→11.2点→11.3点 (全国平均9.9点)	3年生	11.2点→11.2点→11.5点 (全国平均9.9点)	4年生	10.5点→11.3点→10.8点 (全国平均10.1点)	5年生	11.2点→10.7点→11.3点 (全国平均10.1点)	6年生	11.0点→11.2点→11.3点 (全国平均10.1点)	<p>今年度と同様、児童の友達関係を良好に保つことの重要性を、教員で共通確認し、問題の発見、即時対応に努めるようにする。</p>	<p>A</p>	<p>全学年、全国平均より1点以上なので、評価は妥当である。</p> <p>なお、友だち関係の評価として、QUアンケートの「配慮」に注目しているが、「配慮」が具体的に何を指し示しているのかが不明確なので、「配慮」につながる具体的な視点をアンケートに取り組めば良いのでは。</p>	<p>A</p>	<p>次年度、QUアンケートの「配慮」にかかわる質問項目を分析し、指導や評価にいかせるようにする。</p>
友達関係 ※満点12点																					
1年生	10.8点→11.1点→11点 (全国平均9.9点)																				
2年生	11.1点→11.2点→11.3点 (全国平均9.9点)																				
3年生	11.2点→11.2点→11.5点 (全国平均9.9点)																				
4年生	10.5点→11.3点→10.8点 (全国平均10.1点)																				
5年生	11.2点→10.7点→11.3点 (全国平均10.1点)																				
6年生	11.0点→11.2点→11.3点 (全国平均10.1点)																				